

# 新型コロナウイルスの感染拡大による 府内病院の影響について緊急アンケート 速報

大阪府保険医協会では新型コロナウイルスの感染拡大による診療所・病院への影響を把握し大阪府や国に対し要請するため、緊急アンケートを実施。10日に報告しました診療所に続き本日、病院分の速報を発表しました。調査は4/8に府内502病院にFAXを送信し4/13現在80件の回答を集約（回収率16%）。その概要をお知らせ致します。

## ■外来患者数「減った」7割超

減った 58件(72.5%) 変わらない 19件 増えた 0件

「減った」方の割合  
(56件 不明・NA12件)

10%未満	1
10%台	15
20%台	19
30%台	8
40%台	2
50%台	0
60%台	1
70%台	1
80%以上	0
不明 NA	12

回答者80件の72.5%・58件が「減った」と回答。「変化なしは」23.7%19件。「増えた」はなかった（NA3件）。患者減のおおよその割合で一番多いのは20%台で19件（全回答者の24.7%）。次いで10%台15件（同18.6%）、30%台8件（同10%）と続く。20%以上「減った」は全体の38.8%約4割に及ぶ。

### 【主な意見】

- ・厳しい状況の中スタッフは頑張っています。手当を出したいので補助金を希望します。
- ・このままだと病院経営が成り立たなくなる。条件が緩やかな助成金・無利子融資など行って欲しい。
- ・コロナ専用診察に助成を。
- ・今後融資を受ける可能性があるが、政策金融公庫も無利子といいながら実際は3年間だけで、4年目からはしっかり利子がつく上、借入れしても猶予なく翌月から返済しなければならない。他、税制で消費税0、所得税・法人税下げる等(期間限定で)して頂きたい。

## ■感染疑いの来院「あった」65%

疑い患者の来院

あった	52
ない	26
不明 NA	2

新型コロナウイルス感染の疑いの患者の来院では診療所は「あった」「ない」は、ほぼ半数だったが、病院は65%52件が「あった」と回答した。

### 【主な意見】

- ・隔離室で診察し、疑わしい場合は保健所へ相談し対応しています。
- ・有熱外来を院外に特設。
- ・当院では検査不可と説明。
- ・帰国者・接触者相談センターに連絡し、指定された医療機関を受診するよう依頼。

## ■発熱者の外来 控える 17.5%ほど 多くは診療

37.5度以上、咳などの患者が来院した場合  
(重複回答あり)

全て診る	13
様子次第	24
別室で待機	36
他医院受診を促す	17
遠慮してもらう	17
他	9

複数回答可であるが、通院を「遠慮してもらう」「他医院受診…」のみの回答は合わせて14件(17.5%)であり、保健所機能が“崩壊状態”の中、診療所の回答同様に、地域医療を担う多くの開業医がマスクや消毒液不足の中で、新型コロナウイルス感染疑いの患者の診療にあたる状況が伺える。

\*発熱外来を控えた医療機関の実数は14件(17.5%)。

## ■保健所(帰国者・接触者相談センター)断られた・繋がらない6割

帰国者・接触者相談センターへの紹介  
(疑い患者来院52件中)重複回答あり

断られた	18
電話つながらない	11
引き続けた	22
紹介例なし・他	4

1件も保健所へ引き継げず、「断られた」「電話がつながらない」は23医療機関。来院患者「あった」方の4割超。

新型コロナウイルス感染疑いの患者の来院が「あった」52件中、保健所(帰国者・接触者相談センター)へ紹介した際、「かかりつけ医で診て」などで「断られた」「電話がつながらない」と回答した医療機関は23件、4割超(診療所は約6割)。

## ■帰国者・接触者外来を行う医療機関を医師に公表を

公表望む 26件

診療所は6割以上が「医師への公表」を望むと回答したが、病院は約3割にとどまる。

## ■マスクや消毒液等不足で「支障」約7割

マスク・消毒液不足の支障

ある	55
ない	22
不明 NA	3

マスクと消毒液の不足は病院でも深刻です。こうした中、医療現場ではマスクを消毒して再利用している事例が多数報告されています。最近、医療機関にマスク販売(1箱50枚2,500円以上)するというFAXが流されている。従来10倍以上の値段。感染対策を医療機関任せにせず、早急に国の対応が求められる。